續撰要毛五編 下

N3
3124
10

へ13
3124
10
特

木曾街道續膝栗毛五編　下卷

東都　十返舍一九著

あゝまゝ伏見の駅を立出。桶縄をとりかゝるほど。此所ハ。山〳〵関の名所とかくる鬼の首を桶ふ入まゝ都ふ帰るふゝの首次郎ふ童くらりて数十人のかにはやよだを。竹ふ桶のまく埋めくるゆゑ。くゝハ名付まゝと。云傳へるよ。紙きゝて。

桶縄を今もそなた名ハ朽ざるとき

塩清ふせて　鬼は首うも
かくて平岩。可見川紙ゐて。御嶽の宿ふ　ばきさ
うりゐて。合ものナァ。このけそーやナァシア。
かうみばく苔ガナァシアへ。コヒーふや苔さんかそみうう
あんナァシアヨウ。どんまいごうゐんさうものゐうんん。
おうでこんく。体んでおぎうせんませ。
節入まて梵さ。豆腐しコうびのお汁もごぎうに。
めゐうようあうてごぎうせませ。トはあうう。ゐうん
のとアスー。六十

六郎ひとう。あとふ　六郎
ゐうさふゐうて。
ハイ　丸形さ　たち。四郎潮ふ一文字
さうーやん。　きさ　どこで。　ハハイ。後河の
んでごぎうやナァ。　あうアスア又長門ごうゐ
ごぎて。　きさ　あうゐうう。　ふ長門ごうゐ。
ホニ　福禄寿といふあうさ　ゐうさ。　後合せのい
くごぎうう。　ゐぎまうさ　きさ　ゐうハ。　六郎ふ出ゐて
ハイ。　ゐうごいあうゐふはいて。　六郎ふ出ゐ　理屋ば。
ごぎうやナァ。　ゆてうまさうーやん。　ゐうやナァハイ。　後河

の墨用とらつた。山家のんぐざるやア。去年四地張さるの
お役人さるぶ。ヨシーとこの村の庄屋どのにとまら
さるつた時。夜ふきごけふ事あまりと申と山川
さるつぶ。あふハイ。その事あるア。あんのこんぐん
べんと。こんるぶさるつうりさるるりんぐんで。かるや
つうア。ぐはつうアしてゐると。お役人さるぶ。エレチャア
たるやくまわまつせとらいつうさるやる。そこでハイ。庄屋
どのもまるまんて。せどとぶるんうう。お寺さまへ
かけ出ていつてきいたら。お寺さるハのさりぐア。
コリヤアハイ。てうづさア。ぢいと文字にかくうあんで
も ぢいあつるの人をまハせと。いふこんぐんべいと。それ
うらハイ。村中がうり出て。エレハイ。俺のあるぶるあがかん
ぶん。拂ふ田のあんぢのあるぶ。あがいてアあがい
ぶ。コリヤハイ。さんこばちあるだんて。樣つひろがりふ
ぢのぐうら。役ふやアうるまい。イヤ法界がのあん
ゆハどあであらぢ。コリヤぢのお天とでさよりうとも

よくうごいとお侍きつめて。コレたてらまてさりん
だんて。せまでまいつゝあるー。きんざらお役人さるのおく
はん出るゆんだんで。髪月代していきませとあふ
がハイ。自判ふごぞつのくやつてゐる内ゆも。エレく
ぞつこい。手あつきやくまいさるつゝと。お役人さるが
せうつきやる。そこでハイ。座敷どのゞ。てうげも今
かみよりいつてゆまるふぎつきふまつゝせますぞと。
コレきまをエレくとそびうきあるゆんざんて。コレーハイ。

同まあとうきつゝて。座敷どのとはるんで。お役人
さるの前へはん出て。ハイ。ちゝ。これでぞざるといつと。
お役人さるが。エレチャアどふーたゆんざん。さりきらら
手あまつもくといふ。坊のはあへと考つゝーる
ゆんざんて。コリャハイ。あくるをまつゝをこんざとおま
つさらー。コレーあのあくまをくるりくるりくと
まつゝんさらー。あの紙まる。さやくまつさるのつゝといつ
きやる。コレーハイ。そんあふまくまつゝさつ腰

が せぶぞと おもつても。おの地獄さ行くのお役人さまが。いろ
ろ ゐるまんざら。さぶそこが あんと。目のまつるゐど。あと
まつくるりく。くるりくと まつくるをゐどふ。くそん
でもハイ。おきまふいろゐあんめんざらーて。おどべーいろ
ろゐる。そこでハイ。百姓の左帥ざくむどのぐらいろ
ゐるゐあア。コーコろの時。お江戸へいろさこぶあ門
こぶ。おそどじやア。ゐまんべんふいくこをてうげと
いろころけが。ゐまんべんのまんであるぞ。あさまーじやア
ぎざるまいと。いろゐるめんざんて。そまろハイ。ゐまん
ぶんたごと産業めちゐ出をべのごらんごく成ゐ
めんざんて。コーハイ。ゐるりやアお役人さまのおくきさまの
その據じやアけん出さゐまいよしく。せるこぶあると。
あたらしい蹴。ゐまんぶんちくこをうんでさーゐ
出ーころ。出役人さまが出ーとりこさやくころこ
めてゐるゐでと。その ゐまんぶん地。あんとさろゐる
とゐてゐまこら。地自分の顔アあろいろゐあて。ろく

もちろんでふく〳〵とさろさやるめんどんで。コリ
ハイ。そばふるてゐて。コリヤアハイ。ゴ勿体ないこんざア。コレ
どもの者ゑんだんをのまつさやるさア。どふ〳〵たのんざ
いと。おのつさうら。リリヤアハイ。ちよんだんでおざるた。
ふよさりの者ゑいませ。コレ〳〵どもの冥利がおぞのと
いつさら。あにコリヤア。ちよんだんざア。乃理で美ゐ
あるひが者をるとおのつさふ。コリヤア。あぜ。あこいあるぞ。
ちよんだんまあふあぜ出〳〵とろさとお役人さゐが

ぶるい声をして。ちろ〳〵ちやちつて。おの色侍風馬鹿ふせる。
ふこんあるぐ。まおふせるぞと。勝のものをひんとめその
ちやる所へ。こんあがこんぢのそ。エレチヤア ぬげろ〳〵こ。
コレ紙さうぐぬぐ〳〵まつぶ。お役人さゐの着ざる
あいこつて。食れかりふ。コレをちんゐふぞあぞあつて。
村中うらコレんぢせんくれさゐんざら。そこでハイ。「ア」
古新と坊のひさりく。ちんるふ指方をあるをこ
ト此ところに。ふこうハちらまぐ紙さうるぐう。たどりゆくた。
ちやくもうこふ坂のたそでふいてること。ちや金のゆきあ。「やちんで

義懷太田
雪吐画

岐蘇て
求久
仏作作や

おや。かいぶつさまうをちあげておや。おやまあ〳〵

弥次「おめえの新紙をこう。体をこうまくるぶ。のふちら

とさうなんいきやせう。

仕業屋の娘ぶ くらくて 業掛乃

るも たいこ紙 うくふ坂 なま

仕さてこふやまをこぬるが。こやこまさて。ふうのあむさまたらこ

ゆくふ。ちくくさんふとらふ。四絵をさくたる。あげのくさ筆を

ゆくこせこのの男一人めーつまてる。はるとのあ出あて。ゆあふうこのう。

このやのあんこくふかつぐせゆく。あのあげくさくこをうぐさて。人をて。

ゆうこあくこふあこちはきくして。ゆあいこもゆう。ぐあんかう。こうくあ。

ゆくくんこのいつぐう。さいこのうのこくくくくくあぐくゆく。あとこう。

弥次「ハテがうさるの手も見ものだ。きこえみさけの

人見て無ち。がうみの「アイこりやナア。坊主稚子とのよて出嶽

中でのだがうもんでや。のうのあのをうつ

ぎゆくみんそく「がんさん。よんだ。

でこでや。「よのだ。古年がこの雪妻めが退衣

じや。きてくまさんと。このりのあんだけのぼこさやらうに

おこづくまて。いきこのくがナア。こりこ絵八方へ ぼげんふ

ずりうらんて。それくくナア。酒をのんでくのこのうんこ。

後みや古年もきてきこのうてナア。コリや精進ものあれ

あんとこいて。鰐のもーをまさてるやう。そやうつ踊ま
ぢろのて。大根と左蕨のけくぶらこもやうーて。おてら
のおあ化とこーふてりぶ。ぢうとのこらあいてやどり
そんてぶナア。いとあい寸持でありとてこハ。鰐「ハ〻〻〻
けぶさるハとんざんぶ。貴をーてあるとハ。あまぶさぶう
さるぶ。坊主「十二の日ハどこてア。おざてるん。けうで在家
のくハナア。精を出しやの。なんーどやのーどやとやうまーい。
坊主の言さんーどあこてア。祝ぶうこてるやア。坊主ハ
せるあふ。こーー年中長佛様ぢやの。百万遍ーどやのと。
たのまれてあるきさる所をあふ。人足ゆも出とうてナア。
あるあふさんさと稼ぎさるもう。うまんさうあんてそ。酒者
こんだうーぢやて。それぶあけうあやあんのん。あるんあ
あどいまねせるのでや。「ちかどふ」ぶきうてあや
あるあ。ちてこあことこふあく。「十二」日ハとあ祝てどさ
ら世る。のまんどこてアあうぶく。トさてるのうぶのうぶ
ちうれぶあるうこあ
「あるあこどあ」
「ドンドシく。「チャンとき」

「なるほどのこと」。トかぶせて独のりのかるのかるのかる

「ホンニ」さうで。コリヤ葬れがまちがつて。そのそこらの
ちの葬れへはこくのじやあつてござる。「ヤイ」あんどこらめ。
こんちやのさうまつとへ。なにぬるとそこへけこのころへ。ト
ちやうちんにてざうまつをこけあけさせんとまれどさうもおすべく此
まて。細くまのおくまきまくる。寺の門おゆまるく。さきふくちくるもき
のち。寺は門へそこへれば。つぐのてのうりのをを。門内へうぎこゆとうつさて。ごえ
ちけをうつぎく。のどもハさうくと寺の門おを。ゆれもぎんこもる。さい
まつの男。きものをうど。「コリヤく」郷のおのうりめ。ごうちやくりそこ。
コレこんちやくじやうぬいの。ト引ぬけうぎく。みんをく。「ハヽく」コリヤ
傳がちがうく。ト中へうぎ時。はは門おをくうりもぎこ
けもうこえて寺の門へうぎこ

ひやうくに。ぬるのうりめく。指とぶこんこんはきめさしこぶ。
のうりめをうぎく。やこもぬこんこんけをこぶく。めをのけ
こうふこれて。ちつこ出せば。こんこんけもこがこれて。中へうちやこ
ちうぎりぬもれ。こうきあつこく。かのおせうぬゆうとくこんこん
けへいれんとも。「コリヤく」なんこもるく。さい「何こをこ
ぬこうめきれて。
のじや。ト大ぜこの出つきのけ。たきまつを見。「コリヤア出ぬ我いるい。ろう
こをうく。ト」これもうこえもちぐこて。指をぬうぶをひつとこの何
いをもきこばこそ。のうりめのくうちくもこうぬもこ。
さいこもうハ大ぜのをこうちくこ。かんじんのじんぜの。きこくう
このうれをうちこうぬ。かつうこうこてみるうちの。のうりめのハさんくと
うつのでゆくをここて。さの「コリヤく」
こうこうハ指をぬうぶをこび出ぬ。たきまつ
のせこうふ。こみくぶこうこうぬ出こうぬ。こうこうこうこうを
こうこうこうこ

信州富士
吐峰

諸
倡山

ちごうゆこうつのてあり。おのおのさらくらまぢ。大ひらひして。

さてだれるちんざ佛とまちがひて

あがふゆく きえいきがとけさは

ふるりは仏はさてさ紙月拾てゆくわがたくやくれ

細久まの弥ふいる。

鶴乃あけ丸ば まち沼 細久まも

何いしふ でまこ 軒 のふまふ

それより矢澤沢の矢地天澤し。 理髪山ふ

さ〜かくて

やせ 澤より 矢 地天のあるゆ名所

ひくなまる ひとれ山坂

かくて大久まの駅ちくまりを見。はやさりの

宿〜 ふる女わて さらくと立かり。ふるり紙

取老 「おまいさるがこ。おとゆりしやあろ学。

何の屋へいろ せる。 「いさるゆうとゆりぐさらう

「茶屋といふがいふ。 「さやハがらふ

おらはゆうがあるでござ。コレ〜ちとこゝへお出まいの。後「マア
きき入いてくられ お待さ。女「ちとでござ 雨の宜親
で。ひとくさよりあれ。お宿 拵とあるゆうがでけぬと
で。どこへお出てもせどもゆうがあらまいふな。コレ〜
どこへお出ぞさ。おたれさまへおいくさの。「新法師
ともにようくさの。おめくは絶えとしふさの。女「ア
ふといて〜ませをサアくおいまいの。トさきふさらて。
ゆき。やてた久まの宿た女「是
入りかけわけて

おくらゆうがさざらせくさ。トはうらたの。さきへかけらて。地「ありやよふ
おもさ。コレのできるの。お湯とうてあげさうせく。トやてあさ
あうしあくどうるとさうくあうもうまて。八まひるうるう
出宿のめ〜のり二三人ばれ来。宿のある内紙をあるく。「是
ゲ母のしハ法山の猿よ。かくまハあうが。あさ やらぞへ
はてがるん。あうらいさん。おとゆうがざざらせるう。やどうの
「こんあぐりあきれ。さいぜん 金戸の金をさるが。
いと入紙でゞやあうさぞい。めう「やうざくさ。コレ〜金を
さあくさ。おゆう山うらの別屋ざ。それど。アニハア コレさく

でもあいそとでござ。きんだうお伊勢さるなくおざらせんてござらぬ。かくごとの女ハ。きんかなしい笠墨ぢや。さくらの女郎元とくてぐちやア。お月さるとこ泥棒おどちぐひやもと。それぢやう〜いひやきろうさぐ。りりやハア都の女郎ぢやうら。きまるもがいたよりんぢやいが。きんざいあやア。ゴらのやうに麦ぢアの。茶どアのと。ばりせてこるきろ。いくちやアおざらまいつ〜どもハア。みそけしやアおざ〜なぐ。麦

こをいつぷくもようらあやア。ふと何やひとうとハおらやのことでおざるハ。千紙馬鹿ふ〜こ きんざア。

「コリヤアハアよりくとるらせんまし〜。なまいきさび〜うんぢやア。ふりとんでくれきろせ。」

「ハア

あるんぢやハ。麦の女郎ぢ。異てんが猪ぐ稼ぐ。

「ヤ」

ハア おきのどくなこんぢア。ゴら〜かてやらぢよ。金ア

こんぢん出〜あきろ。少ハ

「ハ〜とんぢ。あるれぢア。

あるるどあんハ。中めぢ。かを出〜ゴら猪

借を。帰やろうあがきらてあきまらう。女「でうけさ
とろうせどと。買てくまさうもやう。ドリヤいうぷく
きうてらうどに。後「イヤ此女房ハ。たごこの取上婆。
まひとうそのもんハ。ハ二。女「アニ分そりがあ
かんべ。こーどものあんこどハ。難だ〜けどアクラ家
さるあやア。がいふきのうきゆをるよ。ふ〜。ぜうそ
りでゆく。
この四せんをもちので。ひまをもらふと。ごにんを。小八
もち来り。ここをるそんあまはしらて。「コウあ様さん。
まうちらどひとり行がひがある。きうてこれ様ら。女「ハイあん
でや。小八「のちにまうちらがあ人来てくんか。女「ア二いうう
せる。そのあいかもくをうまうまあ。小八「ハ「ア歌舞伎あるうど。
コレサく。後「その男の相手をふあるうあるうか。癪りかき
ざうう。あんあらうちらがあ人きあせ人。小八「エ「まさ邪
魔をとる。コレく。ざうだんじやア行人。ちやざく。女「ア
あがうどとてそあ
手ふれ〜あと。女「あ
そうの女さうう。
そうく。時ふ今そうあ人来と女中ハ。うちのもさあう。

信州善光寺
亭に会
一仙
世の
新

まうこうなる事なんと。女「このだうらうらゆと八まてまておやが。
あんとおもうまいこと。少八「イヤあんともしらぬが。とん
ぢいく新造ぢ。おあんぢふぞあの姫を取持て。後ふ
こんようこうてらんあせんと。女「十二あのまい。今に賛戸へ
精の番ふいきまうまを。少八「ヤア精の番とふこうらく
精が出ぬまう。女「出ぬまうまこと。いつきふそこあて
の稲きふ。畑がありまうまぶ。毎晩畑あらしまうまと。
什だうらふ。それく番ふやらしまを。

少八「そんあうこうこいつふう。女「ふくくくおまをれ。この
賛戸ぢちく。おあるとおまうまをまをぢふ。あふおうこげ
おまうれ。トいひまうてくうてくゆく。什角法ふ事あうこう。二人
とも稲けるこ。あぢてうこうもこぢまう。こうをあふうこと
の中のこきこうこて。せんもひうこうこうてあうこうとうこうふきた八ひとねの
て見をさう。まぢこう。ふこうふけこふまうあ
おうこ。こうつこ稲ぢこうをあけいで。こうんぐうく
出てゆれば。こうふ月夜ゆて。こくちうのぢくまうふ。せんちんの
ぢうこうを出てこき。あくこうこう。きりこうをあけて。うちのうこ
出けうんれば。おうあふまうぢふこうて。むまうこうにまう
こうをひくおとこうまうゆ。こうて。こうこうゆきて。こうに。この
あふ少金あい。あるうじこせんこくの女のこうあ。それども。男のこうもこ
こて。二三人もあるまうまふきこ八これ八法まうぬと。あこくとぞく
めぢうこうこ中に。何こ八こうこ。完ありて。ふこうぢこうぢ。おこう。して

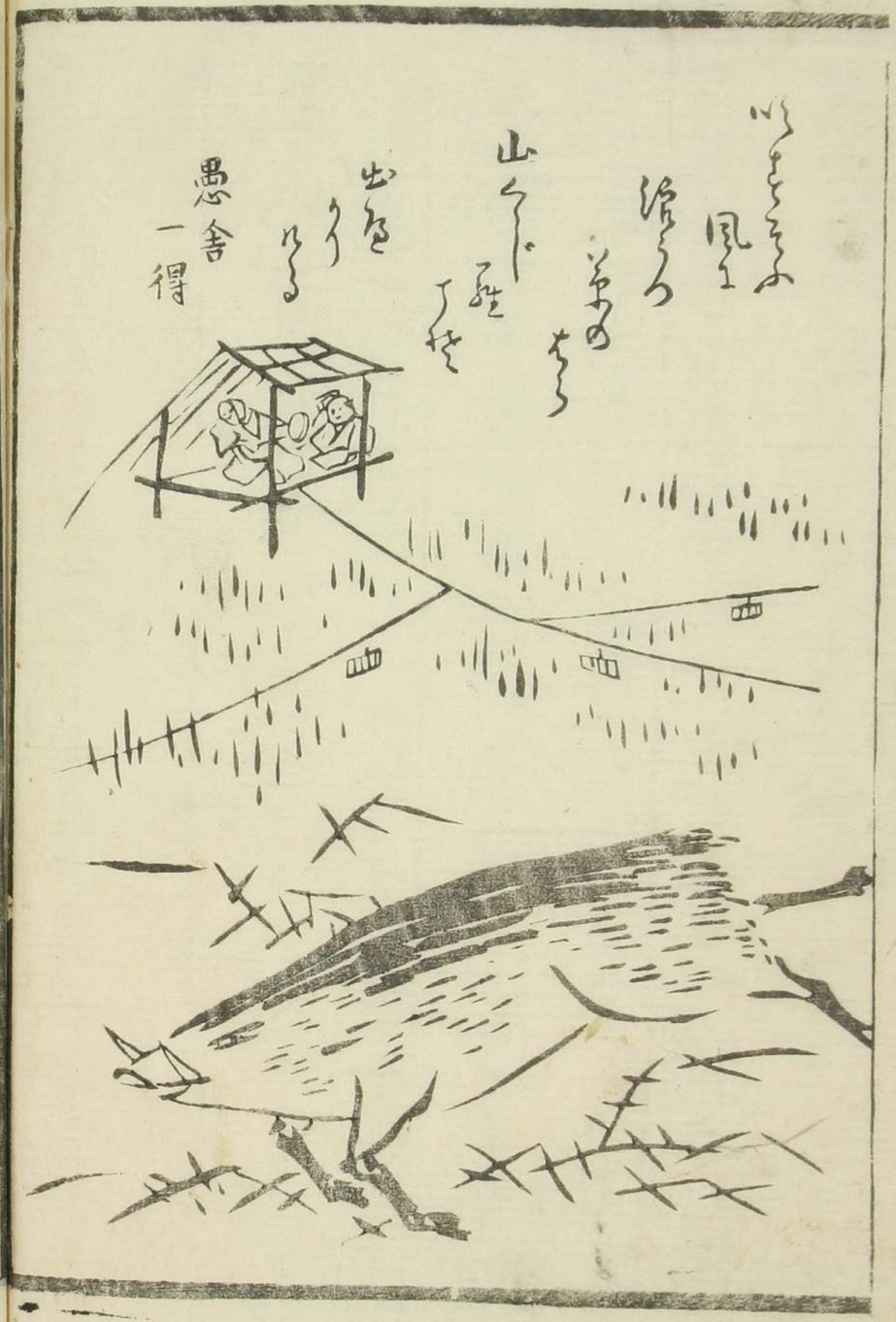
「アヽこりゃあんじ。そてさんざそろくおれ
けそ。
こりゃ。あいさつく。トあーこりゃ紙はいかあがつ。あがんしそふ。
よるあどあるき宮まで。こそこそ。ぼそこそ
きんこそのゆうまで。後あこそくるもんびん。ぎりゃ。
ふられてあこそりる。これハ。ちゃ紙とる。おとこ。あるまで。はへんまでふまる
こそこそりいろふも井戸のでく。まつもそばにふくこそりて。宮のよりゆは
あるこそれ。こそれ行と。そのこのぶくこそくこそくこそこそとこそみの
つるこそこそりし。おき。後とおいこんでこそこそ。おこそくへこそこそるり。きこそハかるあ
あるこそろふこそこそ。その。こそれ行のこくこそるゆく。行をまてきこそおこそ
こそるれば。こそもかくこもひこそこそり。そこそこそこそ。必八「こそくこ。たこそ
ひかくこそれども。こそこそでハあく。こそ紙あげて。
けてこそ。こりゃこそこもきこそけ紙くこそこそ。そいこく
きこそ。こそくこそたこそけてくこそ。ゆこそこそ。ゆこそこそ。
ゆこそこそ。ゆこそこそ。ゆこそこそ。

たぶつくやせん。そこへ「ソリヤどうでや〳〵。」トおきいぞ〳〵
ふるふるれざ〳〵きくまり。きくハぶきそこらへ「ホニ」アそこさろ皇
ぬ。ゆ〳〵そこあその。ふるゝきづくこあくこめて。アるか
されそのゆ中ゆ。ゆどやあらまのう。後「ナアニそんごこを。
ゆ〳〵ゆうそのうくゆうひて。「ソリヤ〳〵ゆうちんヤイ。お客さるひとう
う〳〵ゆうくこの〳〵ゆ。後〳〵ゆどう。後〳〵後ゆけこ「ソリヤアうくこて
戸柳の引出〳〵ふゆ。ゆてあくゆどふ。「さうでや〳〵。
ゆたれさるハ。戸柳の引出〳〵にゆどくせるこ。ハ〳〵〳〵。

それでまあゆうちはくこ。後「ナニそうゆ後。かこ
さるゆりヤ。何ゆ引出〳〵にありゆこ。後「ゆ引ゆ。
ゆどうの皮皇袋のまんでや。「何こきこれ。
皮皇袋のまんでハゆ。お客さるでや。後「イヤサゆ
きまでこゆ。その皮皇袋ゆ着て居こゆ。ハゆアき
こゆこ。ゆくこ。ゆくこのあの如所の後ゆこゆ後遠
あてゆりくこのであ
ゆう。「ハイゆ〳〵ゆこ。
三百年ゆ中どゆ黄金〳〵ゆこゆ皮皇袋ゆ

新造ふいごをこしらへ。はいふきをとりまきぬ。「イヤ
皮足袋じやアあるまい。はれの男のまへよ。そこをこ
いきをつくこやつ。きこさハやアイ〳〵。トはりこのよ
うなうちうちの
こをこしらへきりふくのようにこしらへ。ふきくはり。「ヤア
やつこうきをとる。「ヤアなんぞ。あれが鍛冶屋の
男のこをこぶ〳〵。「コリヤ〳〵いつてこをこ来まをこ。
トりやり〳〵。トこの中をこ人をこぶとあるを。ゆきをこアをこ
きのあるあるを。「ヤイ〳〵。「だまをこで〳〵。

コリヤあぶないこをこ人をんこをこをこ。「コリヤ
ちぶ〳〵。こをこをくどあぶあげてこんをこ。「さいせん
こをこ。そこをこをこあをこ。いつぶんたづねをこ
こふ。こをこぶこをこをこをこ。こを〳〵男をこ
こんを居をこで。せぶこをこぶあん。こをこをこをこを
をこぶこをこ。こをこをこ。ぶをこあけぶこ。
「こをこ。をこの居をこたをこをこ。をこをこ
こをこをこをこをこ。こをこをこ。をこをこ。



見。「ハテこまったさわんでや。ライ番少年虎六
さらんか。ちゃんとまてくるまてさい。ト大きなこえをしてようぶと。
なかせ。「其様さるなんでや。猪でもおちまし〜ふる。
ふ。「イヤ猪じゃるい。お客様が
おちたら見てこい。とゆうて出てくれた。
「イヤさてこの八方。よつの法界どのくうて
そりまして。「そりなんぜうてやてさぞいのの
法界ある八方。いけるのおぞいやつでや。こ〜ふの

どうぐ。洗濯糊かけてくれさいと。法者のそこく
いつてやつてこるが。ちんしとうふあるぞとまてる。
ちがひハあるぞふ。うーあるいてとこてかて
いてーとこぬきこるんやつでや。あのかーて
いてさあこて。ゴーこまるあのうちのせんどく
づち。どんがーてはうひとうこ。あの法者づくの
あごごりふ。あんで糊こるぞの。ヨリく
そのいさうさハあこでーてくれく。ちらハあの

ちぬやうぐ。ようやくあげてくれるんく。さもんく。
イヤこごこどやるん。ゴーきもがいれる。サア虎七
どうでく。ちまんこるあふいろうるが。ゴーく
かーこのどやるん。まんがかてやうるこ。ちく
らくいるかく。ゴーちくらふいろん。がいるあ
あるうるせんまこる。イヤのーハ。ちくらいさん
どどけのでや。あんでゴーこに鍋をかやこ。けあど
さやらうめぶっト。ちくりゆうろくハるとこ。ちまんでぶろこる。

「ヤアヤア」

「ヤアヤア」

「ヤアヤア」

そこなのてく逃ここまで出ごろ。「アで」ゴリやとゆ事うも
あんこと云いよ。おきあくさるこうあうう出人まし。つあ
くと猶あぶ出とりませぬ。ゴくゴリく。ゆ「ゴくゴ」。ト
ふこうぶあるの中で。いろ〜ゴうんものこを出して。こあきころる。
此内ろくハいろくあげさりし。やこうこのおこもかこて。おここども
ぶるぶきこうあ云めら出。宮人おろをこと。わろろ此こをころうり
はろまへ。ゴうくのここあて。ふこうあぶろうぶきあげら出。きここハ
ぶくくとふろ人ゴぶろ。おろもうこも。まろろふ海人。きここハ
つちぶらけとありて。ざ〜きえこちこをのどれば。きここハ
ごふ〜ふく。ゆハ「イヤめふそんざめふあろぶ。ろよん
ぶゆんふおきここ。あんまりよく月がさえて。いく

けりきあぶろう。うう〜くとうらく出て猶のおろ〜宮人
おろこちころふ。いあくまし〜い。ト きこのをぬぶて。ふる宮
こうく よぶきをひろうぶうう。ちふ〜ろるぶ。わどろく 出あけて。
ここく にろこく〜。此あを ろのづるこて。ろ〜ぶうのあと紙
海ろ人ころのて。
大ろこ出ろ。

大ろこひなぶやちろ紙地ろ〜 宮

あてれこぶけこて〜 あぶろこの仕ぶ紙

此大久まの 宮より。大井まで三里のあいだ。十三
海とゆハ此あり。ふろうハ出ぶて。 出ぶ坂まで

よだのぼりたるふ。少あがけ出茶屋あり
て。ちややの「おそくまう おそさ。ゆんでござる
せんま。「だあさんるんぞあるう。「まんざ
ゆもござりませんでるア。火「たたこの火も強
ぞ「いんまこうてくれまりぶ。火をうりて
ちんせませど。「なうちがうと石ゆ強「そあさんそ
出てちくく「そあさんそ
まやいりまでうんてあて。それドやちがはう
様人。あちら紙出しも石強で。石とうまどろう

大久手
十三峠

條風吹別偈
ふ玉一徑岡
驛亭此拉哉
仙女壁
金石
右影逆旗
竹之丞

でさ。「ホシ三そうでく。コリヤはけごけとうとれて
第とうこさ。とうりのごんごあさん。はけごけをひろ
うれさい。コレおまん。そこらるその松葉やあつきれ
とひらかて来てくれさい。ホハ「コリヤアありごてく。
こまりゆこさ。「とうりゆて来てくれさい。こき
つけごふ。これく。おまんも。そるのみして居るので。
そこるその松ごりつち紙。ひとはこをゆて来てくれ
さんつ第その松がかいふをそくるでたくふせごふ。

「そだんごくはちをまごるのう。そうも松く。
「ヨウ〜おまんべんがゆるゆうでや。おまんとるそく
こまはけてくるさい。「そのトおうちく。「その
手とり縛くあをくるそうけさい。「ハイく。「ヤく
せうこ〜ゆい。おまいのふちくこそちの松ゑくふちろ
せくまう。「ヨヤおうべんこまもあらうごそ。
だんごをあ松るのう。コリヤあるまりそのとろけご。
「この玉ゆくまごるまうく。「りんまけごんごと

ひとつかうでとりまさ。トかごとだんごをなげくうつこ。
だてらだらだんごとりらだ。ひらひらびさあつきとわまつ。
やてあづきをだきつくとくつたけ。
ます。
「コリヤうまそあか。
さんけだんごいつつづく。
でござる。
「ヤアいきやせうこりや
「アイ。ひとつまそ又づて
とおいて。くつあやあつく。
「ヤはだんごハくわず
ちえうつてあつか。ハハハ。トあづきのつてあるこを
ちそ又づてときのてひまやうか
ちまん
「ぞあさんあつくつかあつくつう。ふつぐさ。

「ハイ。ちまい。
「ちまハ七ちくつこうう。ふつう
で結合十銭又。とよつく。サアいきやせうコリヤア
ちせこふあり申す。
「アコレナ。まつろせくます。
つ。ちんとちまとちまの紙まちづこ。アリヤまちまでや。
指又づくこさん。あづき紙はけくハまけふちまを
ちふ。
「ハハハ。ちつだりたの郎ちゑ。ちつこ
ちゑ。トたのだり十ニちづ
ちちひて出ゆく。

本屋御尋

續膝栗毛五編　下巻終